

❖ お薬手帳用シールの例

尿の出・市販薬の使用にも注意

まれですが、副作用として尿が出なくなることがあります。このような症状が現れた時には、すぐ受診してください。市販のかぜ薬などを一緒に飲むとリスクが高くなる場合があります。市販薬の使用は必ずご相談ください。

女性の方へ

動物実験では、このお薬によって胎児に影響が出るという報告があります。妊娠の可能性がある場合は必ず医師に相談してください。

錠剤をかんだり割ったりしない

このお薬は効果が長く続くように作られています。かんだり、割ったり、すりつぶしたりすると、お薬の効き方が変わってしまう恐れがあります。錠剤は、かまわずにそのまま服用しましょう。

授乳中の方へ

動物実験では、お薬が母乳に移行し、子どもに影響が出るという報告があります。授乳中の方は必ず医師に相談してください。

定期的な心電図検査を

動悸などの症状がある場合は、必ず早めにご相談ください。不整脈のある人などでは、お薬の服用にあたって定期的な心電図検査を行うことが必要です。忘れずに検査を受けるようにしましょう。

こんな方法もあります

少しずつ排尿間隔を延長して膀胱容量を増やす膀胱訓練や、骨盤底筋を意図的に収縮させる骨盤底筋訓練が有効なこともあります。医師に相談してみましょう。

肝機能、腎機能もチェック

肝臓や腎臓の働きが弱まっていると、お薬の分解や排泄が遅くなって、作用や副作用が強くなる可能性があります。定期的に検査を受けて肝機能、腎機能をチェックしましょう。

日常生活での注意点

過剰な水分摂取、カフェインのとり過ぎに注意しましょう。また、早めにトイレに行く、外出時にトイレの位置を確認しておくなどを習慣にすると、トイレが間に合わないということが防ぎやすくなります。